

ホタテガイ養殖管理情報

水温が中層（10～15m層）で23℃を超えてきたので、稚貝の施設を水温の低い下層へ沈めましょう

1 海況

8月4日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は、図1のとおりで徐々に上昇してきており、23℃を超えるところが見られてきました。

2 養殖管理の注意点

(1) 新貝・成貝

水温が20℃で成長はストップし、それ以降は中腸腺（ウロ）や貝柱のエネルギーを使って生命を維持しますが、**23℃を超えるとエネルギーの消耗が激しくなり、最後はエネルギー不足でへい死**します。また、27℃以上になると、鰓による呼吸ができなくなり、急死します（図2～3）。

このため、**出荷する予定以外の貝は引き続きできるだけ水温の低い下層に沈め**ましょう。また、体力の消耗を抑えるために、**玉付け、掃除、へい死確認などの作業は行わない**ようにしましょう。

(2) 稚貝

水温が23℃を超えると成長は鈍り、25℃で成長がストップし、26℃を超えるとエネルギー不足からへい死の危険性が高まります。また、27℃以上になると、鰓による呼吸ができなくなり、急死します（図2～3）。

このため、**採苗器及び稚貝採取後のパールネットはできるだけ水温の低い下層に沈め**ましょう。

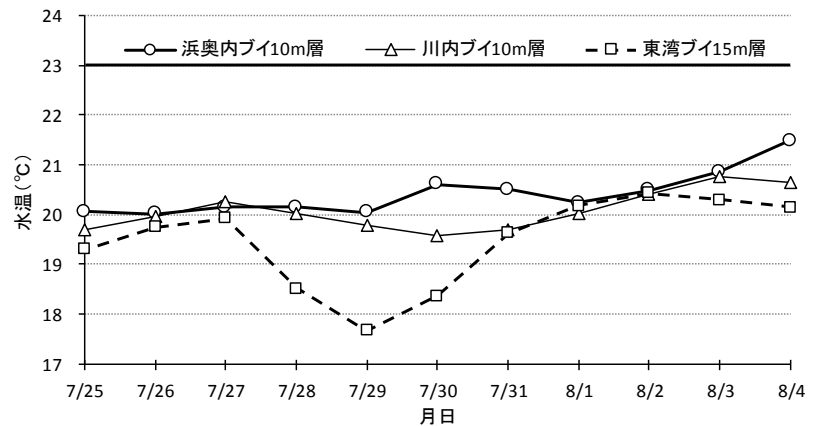
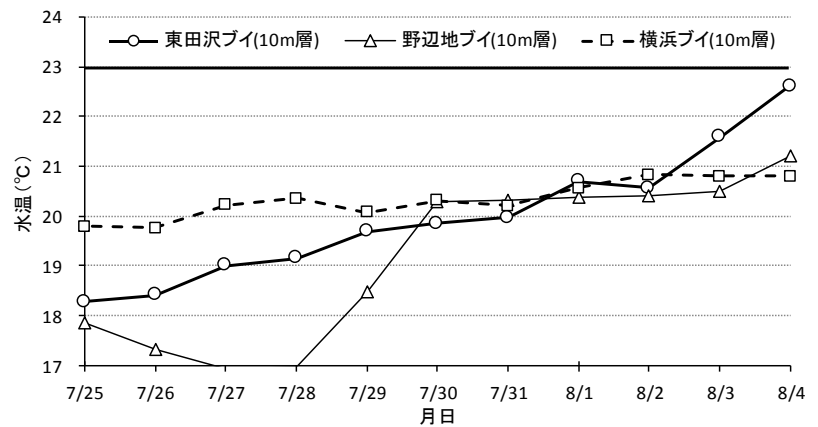
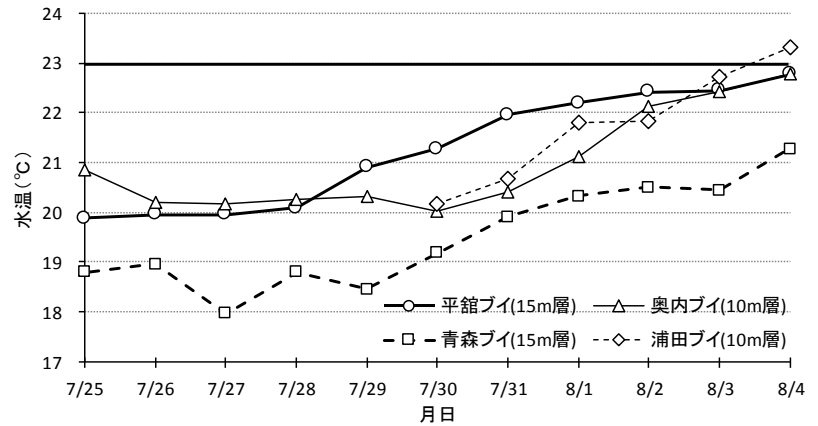


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

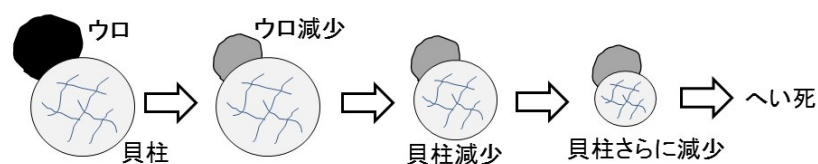


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

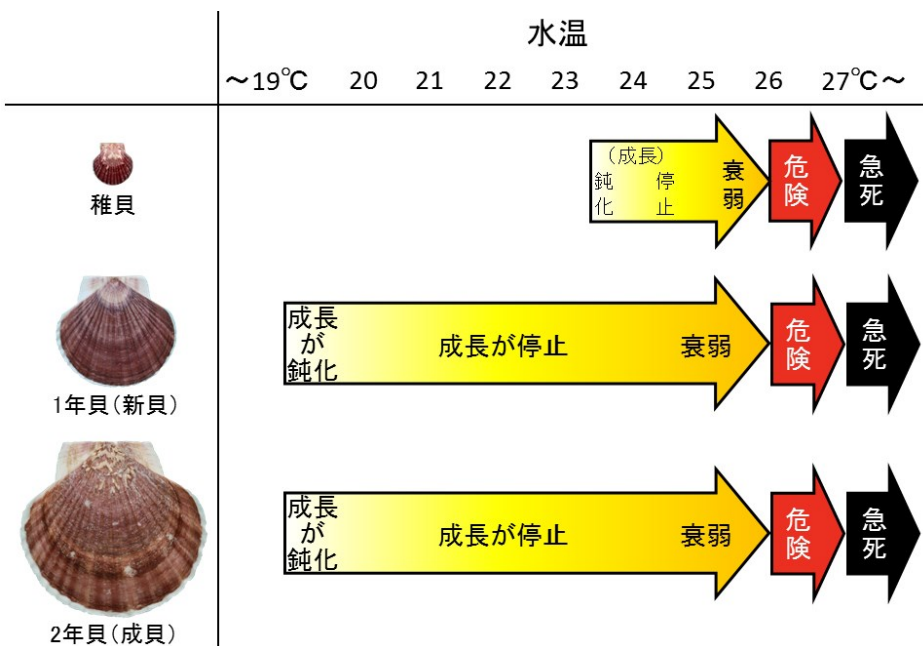


図2 ホタテガイの成長と生残率に与える水温の影響

